

2021 年度（令和 3 年度）の事業報告書

2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人
居場所サポートクラブロベ

1 事業の成果

(1) 学童クラブの開設・運営事業(6)子育て支援に関する相談・講座・イベントなどの企

画運営事業

本年度も新型コロナウイルスの感染予防対策をしながらの運営となった。学校が休校となったり、オンライン授業になったりと、その時々で異なる対応を迫られることとなった。学校から学童利用の自粛要請もあったが、保育の場の必要性の観点から、開所することとなった。机・手すり・蛇口・ドアの取っ手の除菌や、職員のマスク着用・勤務前の検温などの感染予防施策を行った。

また、例年に引き続き、ただ預かるだけという姿勢ではなく、一人一人の人間性を育むことを念頭に世の中についての学びを与えた。

◎色んな人がいること、共に楽しく過ごすこと

ROBE はみんなが楽しく過ごせるようにする場所である。どうすればいいか？というのを子どもたち同士で考えさせ、「子ども会議」を行い、自分たちで決めたルールで過ごした。何かめ事が起きても、極力子どもたちで解決させ、大人が入るときも双方の言い分を十分に聞き、社会的な行動をひとつつつ身につけた。

◎ビブスの着用

外で遊ぶときにはビブスを着用する。中で遊ぶ、勉強時にはビブスを脱ぐ。制服、スーツ、作業着など必要な TPO に応じて正しい服装でいることの練習を行った。

また、ビブスを着ることで近隣の方もロベの子とそうじゃない子を識別することができるようになった。

◎洗車・ゴミ拾い

送迎車に使用している社用車や普段お世話になっている職員の車をみんなで洗車した。感謝の意を示すこと、モノを大切に管理することを学んだ。人の役に立つのは、楽しいことだという感覚は今後も大切にしていきたい。他にも近隣のゴミ拾いなど地域の一員としても地域還元の活動をした。



また、学童保育では、例年に倣い 4 つの特別プログラムを実施。①算数・国語塾タイム、②書道タイム、③図工タイム、④音楽タイムの 4 つ。

① 算数・国語塾タイムでは、無学年教材を使用し、児童各々が毎回一定量の学習を行った。意欲の高い児童はもくもくと取り組むことにより大きな進捗を示した。低学年の勉強習慣がまだ定着していない子についても、まず机

の前に座ること、勉強の時間は静かにすることなどといった勉強姿勢のところから教え込んだ。

② 書道タイムでは、硬筆と毛筆の練習を行った。心を静にして、真剣に作品の制作に取り組んだ。



③ 時には墨絵を筆と墨汁に慣れる意味合いでも行った。なお、来年度からは日本習字登録の講師の元での授業となり、級位・段位の取得が可能となる。

④ 図工タイムでは、聴覚障害を持つ中国人スタッフの講師の指導により画用紙や紙コップなど身近にあるもので様々な作品を作った。手先の器用さ、自由な発想力を培った。子供らしい作品が多数できあがり、みな嬉しそうに持ち帰っていった。

⑤ 音楽タイムでは、現役の幼稚園で指導している講師によるレッスンを実施。12月のハンドベルの発表会に向けて、日々練習に取り組んだ。最初は全く楽しさを見出せない子供たちだったが、音がまとまるに連れて楽しさを見出し、発表会では保護者の見学の元、地域に綺麗なハンドベルの音を響き渡らせ好評を得た。

そのほか、夏休みには、学生ボランティアのサポートを受けてのプール遊びやバーベキュー、秋にはハロウィンやクリスマスのハンドベル発表会などのイベントを実施。コロナ禍ではあったが、子ども達は屋外や室内での学びや遊びに元気いっぱいに取り組んだ。



◎むすび

今年度はスタッフの刷新もあり、今までの体制の見直しと現場運営の改善を行うことができた。

問題行動をとる子にもその子なりの理由があり、なぜその行動を起こしたかの心情背景にきちんと寄り添えば、根本的な解決につながることを、職員のミーティングで繰り返し確認した。子どもたちも我々の信頼に応えてくれ、暴れん坊だった子も複数いたが、きちんと協調できるようになった。中には低学年の子の面倒を見てくれるようになった子までいた。

2022年度も、今まで通り子どもの力を信じる保育を続け、かつさらなる成長のために新たなチャレンジをしていく予定である。ますますの子どもたち、保護者の皆様、関係して下さる皆様のさらなる発展を祈願しむすびとする。

(4)各種習い事教室の開設、運営事業

・ヒューマンアカデミー社の FC 加盟によるロボット教室の運営

小学 1 年生から 6 年生までの生徒 9 名の生徒さんが在籍し、月に 2 回の授業で、金曜日又は土曜日にみどりの学童施設において開催。ロボット制作プログラムは、ヒューマンアカデミー社の提供する教材を用いて、モーターで動く基本のロボット制作(プライマリーコース及びベーシックコース)からタブレットで動きをプログラミングする中上級コース(ミドルコース及びアドバンスコース)まで幅広く指導を行った。各コースは規定の履修回が定められているが、プライマリーコースの途中からベーシックコースへ、ベーシックコースの途中からミドルコースへ飛び級を行った生徒さんも居た。長時間集中することが難しかった生徒も、コミュニケーションを積極的に取りながら組み立ての補助を行い、最終的に自力で集中して進めることができるようになり、成長を感じられた。年度途中で教室を卒業される生徒さんもいたが、年間を通じた体験授業や同法人が運営する学童と連携し、内部生による体験授業を実施したことで、新規生徒さんの入会につなげることができた。

教室運営においては、LINE の教室アカウントを公式アカウントとして立ち上げ、保護者の方と運営事務局側が連絡を取りやすい体制を整えていたことが、教室の安定的な運営に役立った。新型コロナウイルスによる緊急事態宣言や台風などの災害等により、教室開催日程を不規則に変更せざるを得なかった際にも、保護者の方との連絡を密にし、振替や一時休会の希望に柔軟に対応しながら継続して教室に通っていただくことができた。



(10)障害者や高齢者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業

・障害者グループホーム運営事業

障害者グループホーム、居場所ホームセレサは 2020 年度 10 月半ばより本入所が始まり、一周年を迎えた。A 棟を女子棟、B 棟を男子棟とし、各棟とも本入所用に 4 部屋、体験・短期入所用が 1 部屋の計 5 部屋の居室がある。2020 年度には A 棟 1 名、B 棟 3 名であったが、体験入所を経て A 棟には 2021 年度に 8 月 9 月に 1 名ずつ、12 月に 1 名の計 4 名の入所となり本入所用の居室は満床となった。

入居者の内訳は、A 棟が 50 代が 2 人、20 代が 2 人。B 棟は 20 代が 3 名となっている。

50 代の方は、ご家族も高齢となり、「本人の一人暮らしでは心配」との事で、ご家族の勧めもあり入所されている。

20 代の方達も、「支援がないと一人暮らしは心配される」方達である。ここでの生活を通して、社会的な生活力や仕事等、自立に必要なことを学び、一人暮らしを目指している人達である。

日中は、各就労施設の送迎バスで出勤される。

朝は出勤時間に合わせて食事を提供している。また、休日等には小さいながらも畑を作り、入居者職員ともに季節の野菜作りを楽しみ、収穫の際には食卓に登場したこともあった。

月に一度、中華、焼肉、寿司やしゃぶしゃぶなどを全員で食べに行く外食イベントも行っており入居者からも喜ばれていたが、1 月以降はコロナ禍の為に中止となっており残念であった。

短期入所では、障害のある幼児及び小学生も入所対象であり、ご家族の希望があれば受け入れを行

っている。子供の入所者は、大人の入居者との交流もあり、自宅とは違った新鮮な気持ちで楽しい時間を過ごされていた様子。随時、ホームの見学希望があれば案内を、説明を行った。

1. 体験・短期入所を実施（本入所に向けて生活を体験していただく）

① 体験入所

- ・M,N 様（57 歳・女）4 月に 4 泊 5 日、7 月に 4 泊 5 日
- ・N,K 様（58 歳・女）7 月に 2 泊 3 日 ・M,M 様（21 歳・女）7 月から 8 月に 15 泊 16 日
- ・D,K 様（17 歳・男）R4 年 4 月から 6 泊 7 日

② 短期入所

- ・N,K 様（58 歳・女）8 月 8 日～31 日・M,N 様（23 歳・女）12 月 27 日～31 日

2. 本入所

- T,N 様（21 歳・男）1 月 1 日～ Y,M 様（25 歳・男）4 月 14 日～
- Y,A 様（28 歳・男）5 月 1 日～ N,K 様（58 歳・女）9 月 1 日～
- M,N 様（57 歳・女）9 月 1 日～M,N 様（23 歳・女）R4 年 1 月 1 日～

(3)児童・生徒の学習指導事業 (6)子育て支援に関する相談・講座・イベントなどの企画

運営事業 (12) 子ども食堂の運営事業

はじめに

つくば学習会とは、経済的な理由により学習塾の機会確保が難しい子供への学習支援無料塾である。様々な理由で学習の機会を確保できなかった、小学生から高校生までの児童に学習支援を行っている。令和 3 年度におけるその無料塾の取り組みを下記にまとめる。

1、つくば学習会の理念と目標について

特定非営利活動法人 ROBE つくば学習会は、弊社理念「愛・調和・感謝」の精神に基づき、下記の目標に取り組んでいる。

1. 経済的困窮世帯の児童へ、学習の機会を提供し、学力の遅れの挽回、成績向上。
2. 学習会での勉強や体験のなかでの自己肯定感をはじめとする非認知能力の向上。
3. 食、社会の支援情報、体験機会・相談機会などさまざまな方面からの包括的支援。
4. 1～3 について、生徒、家庭ごとに必要なサポートの見極めとその提供。
5. 1～4 を通じ、学習機会の損失・支援の不足に基づく貧困の連鎖を食い止める。

2、実施回数と参加人数について

貧困世帯の子供たち（主に小中学生）に対する無料学習

支援事業を行った。

つくば市との協働事業の、つくば青い羽根学習会として竹園教室・谷田部教室を運営。

また、自主事業として万博教室を運営した。実施回数の参加延べ人数は以下の通り。

	竹園教室 (毎週月曜日)	谷田部教室 (毎週火・木曜日)	万博教室 (毎週土曜日)	合計
実施回数	72 回→44 回	126 回→88 回	39 回→44 回	237 回 →176 回
イベント 実施回数	5 回→14 回	6 回→15 回	1 回→1 回	12 回 →30 回
登録生徒人数	31 人→57 人	47 人→50 人	16 人→16 人	94 人 →123 人
参加生徒 延べ人数	873 人→1180 人	1595 人→ 2225 人	287 人→286 人	2755 人 →3691 人
登録コーチ 人数	53 人→68 人	50 人→50 人	27 人→22 人	130 人 →140 人

※数字左側は去年度



【特記事項】

- ・実施回数について、去年は対面授業に替えてオンライン授業を生徒の希望日に応じて行っていたため減少した。
- ・生徒の登録数もだが出席率も向上した。
- ・オンラインでの学習支援も含む。

3、新型コロナウイルス感染症対策について

【実施、来塾の判断】

感染症対策として、塾の実施の判断は、つくば市こども未来室と連携し行った。また、学校が休学になった場合は、当該学校の生徒は来塾させない措置をとった。

【現場での感染症対策について】

- 1 社会的距離の確保
 - 社会的距離を確保した座席の配置
 - 接触機会をできるだけ避けるよう指示
 - これまでの調理室での全員集まつの会食を中止。
休憩時間の分散等による休憩スペース等における人の密集を回避
- 2 職員及び受講者等の保健衛生対策の徹底
 - 職員及び受講者のマスク着用、手洗い（手指消毒）
 - 消毒液の設置、ごみ廃棄時の衛生管理
 - 職員の体調管理、風邪症状がある場合の受講自粛を要請
- 3 施設の衛生管理・換気の徹底
 - 座席、机、テーブル、利用設備・機材等の消毒
 - 換気設備による換気、又はドアや窓の開閉による換気
 - 手洗い場（トイレ）におけるハンドドライヤーや共通のタオルは使用しない
- 4 集団としての感染症対策意識の向上
 - 感染症対策は誰かにやってもらうものではなく、自分の身は自分で守る、大切な人の安全を自分から守る、という意識づくり。

【利用施設に対して】

利用施設の取り決め通り、利用者の容態確認を随時行い、毎回、利用者の名簿（住所と電話番号が分かるもの）を施設に提出した。

【食事について】

子ども食堂も、市の判断に応じての実施とした。

実施した場合、下記の徹底の元での実施とした。

- ・食事前の手洗い消毒
- ・密集状態をつくらないう、各教室や廊下での食事
- ・学習机での食事になる場合は、机の除菌、消毒を実施
- ・生徒ごとそれぞれの食器、箸での食事

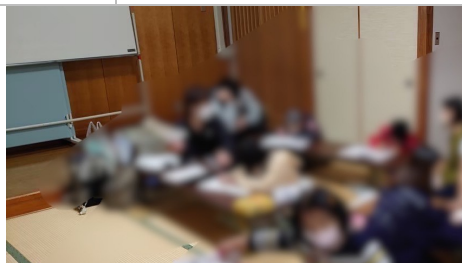
4、つくば市協働事業の学習支援について

下記の通り、つくば市社会福祉課子ども未来室と連携をとり学習支援を行った。

また、現場で起きたことや生徒について、担当課はじめ、家庭相談員、スクールソーシャルワーカー、家庭相談員、未来派遣員、他の NPO 団体といった各専門機関に協力を要請し、都度問題の解決を図った。

A：竹園教室		
運営形態	つくば市社会福祉課子ども未来室との協働事業。 「つくばこども青い羽根学習会」の枠組みでの運営。	
	小学生教室	中高生教室
学習時間	毎週月曜日 18:30～19:30 授業前半 19:30～20:00 こども食堂 20:00～20:50 授業後半	
指導スタイル	コーチ1人で、 生徒を1人、ないしは2人 見る個別指導方式	コーチ1人で、 生徒を1人、ないしは2人 見る個別指導方式
1回あたりの 生徒の 参加人数	6～10名ほど	15～20名ほど
1回あたりの	4～6名ほど	10～15名ほど

コーチの 参加人数		
利用教材	【のびのびジャンプ】 無学年式の教材で 生徒の理解レベルに合わせた学 習を行った。 教科は国語と算数。	【生徒持参教材】 主に学校のワークブックや、 学校で出されたプリントなど。 【コーチ用意教材】 必要と思われた生徒に対しては、 コーチや本部で用意した教材 にて学習を行った。
学習の様子 や成果	発達や学習の特性を持ったお子 様に対しては面談等を実施した 際に保護者、コーチ、本人と今 後の勉強の方法を話し合い、お 互い納得のいくような勉強方法 を行い学習支援を行った。	コーチと生徒のマッチングを固定化 するようにしたことで信頼関係を築 き、勉強を前向きに行うことや、進 路相談や悩み事などを気楽に話せる ような環境づくりを行った。そのこ とにより、重大な悩み事等を早くキ ャッチできるようになり、多くの生 徒の悩み事を解決できるようになっ た。



小学生教室の様子



中高生教室の様子



B：谷田部教室		
運営形態	つくば市社会福祉課子ども未来室との協働事業。 「つくばこども青い羽根学習会」の枠組みでの運営。	
学習時間	毎週火曜日、木曜日 18:30～19:30 授業前半 19:30～20:00 こども食堂 20:00～20:50 授業後半	
	小学生教室	中高生教室
指導スタイル	コーチ 3～4 人で、 生徒を 10～15 名ほどに対応。 生徒が各々教材をすすめ、 コーチが回答を確認する方式。 生徒はなるべく自分の 力だけで学習をすすめる。	コーチ 1 人で、 生徒を 1 人、ないしは 2 人 見る個別指導方式。
1 回あたりの 生徒の 参加人数	10～15 名ほど	8～15 名ほど

1 回あたりの コーチの 参加人数	3～4 名ほど	6～10 名ほど
利用教材	【のびのびジャンプ】 無学年式の教材で 生徒の理解レベルに合わせた学 習を行った。 教科は国語と算数。	【生徒持参教材】 主に学校のワークブックや、 学校で出されたプリントなど。 【コーチ用意教材】 必要と思われた生徒に対しては、 コーチや本部で用意した教材 にて学習を行った。
学習の様子 や成果	集中力が続かない子も多く、 まずは学習習慣を身に着ける ことが目指された。 時間にて定められた行動をする こと、他の生徒に迷惑がかかる とはどういうことか、 といった社会における 普遍的なルール習得にも 力を入れた。 学習においては表面的な理解 で終わらず、本質的理解を 目指し、応用的な問題にも対応 できる力の習得を目指した。	隣の子と私語をしてしまうことを減 らすため、なるべく各生徒に 担当をつけたり、配席を工夫して勉 強に集中してとりくめるような環境 の設計に力を入れた。 生徒の勉強への興味を保持するた めに、本、プリント、タブレットなど いろいろなツールを取り入れた。た だ答えを写すだけ、などならないよ う意味のある時間にするため、コー チにも生徒にも、限られた時間をど う最大限活かすか常に意識させ学習 支援に取り組んだ。

両教室ともボランティアコーチの熱意が高く、生徒それぞれにあった学習支援をボランティアコーチとともに探っていくことができた。

5、自主事業の学習支援について

つくば市との協働事業でない、自主での学習支援事業も下記の通り行った。

C：万博教室（小中学生合同）			
運営形態	NPO 法人居場所サポートクラブロベにて独自に無料塾を実施。 時間帯や場所の都合で竹園教室・谷田部教室に来れない子ども たちが主な対象になった。		
学習時間	毎週土曜日 10:00～12：00	場所	万博記念公園駅前 X-STAGE006
指導スタイル	コーチ 3～4 人で生徒を 8 名ほどに対応。 担当する生徒を決め、学習を支援。 コーチ 1 人で 1～3 名の生徒を見た。		
	小学生教室	中高生教室	
生徒の 参加人数	1 回あたり 4 名ほど	1 回あたり 4 名ほど	
コーチの 参加人数	1 回あたり 3～4 名ほど		
利用教材	【のびのびジャンプ】 無学年式の教材で 生徒の理解レベルに合わせた学 習を行った。 教科は国語と算数。	【生徒持参教材】 主に学校のワークブックや、 学校で出されたプリントなど。 【コーチ用意教材】 必要と思われた生徒に対しては、 コーチや本部で用意した教材	

		にて学習を行った。	
学習の様子 や成果	子どもの数が少ない且つ来る生徒とコーチはほとんど決まっているので、毎回同じマッチングが可能になり、お互いの信頼関係を築きやすくなった。読み書きの勉強にかかわらず、プログラミングや、読書など様々な勉強方法を取り組み学習支援を行った。		中高生はほとんどが竹園教室を利用している生徒がメインだった。少人数という環境を活かし、勉強で分からない所を質問しやすくなる他、生徒同士で勉強を教えあったりと和気藹々の雰囲気を作り、仲良く学習することができた。
D：万博教室（受験対策及び中高生レベル別学習支援）			
運営形態	NPO 法人居場所サポートクラブロベにて独自に無料塾を実施。 テストの得点、進学に対して意欲がある生徒限定。		
学習時間	月～日曜日	場所	万博記念公園駅前 X-STAGE005、006
対象	中高生		
指導スタイル	1回の授業でコーチ1～2人で生徒を2～6名ほどに対応。 ・小人数制と担任制を採用し、一人一人の生徒の学力や性格に応じたきめ細やかな指導を行う。 ・中3生のクラスについては、ハイレベルクラスと基礎クラスに分け、志望校に応じた指導を行う。 ・コーチごとの得意分野によって指導する科目を分け、専門性をもって指導を行う。 ・オンライン授業も積極的に取り入れる。 ・PC環境が無い生徒については、PC等の貸出を行う。 ・「分かるまで」「できるようになるまで」「誰も置いて行かない」方針で指導。 ＜中学生クラス＞ ①中3ハイレベルクラス：竹園高校等の難関校に合格できる確かな実力を身に付ける。（在籍：5名） ②中3基礎クラス：偏差値50～55程度を目標とし、生徒の学力に応じた学習支援を行う。（在籍：6名） ③中2基礎クラス：学校の授業に即し、基礎学力・内申点の向上を目指す。（在籍：4名） ④中1基礎クラス：学校の授業に即し、基礎学力・内申点の向上を目指す。（在籍：1名） ＜高校生クラス＞ ⑤高3基礎クラス：学校の授業に即し、基礎学力・内申点の向上を目指す。（在籍：1名） ⑥高2最難関大クラス：共通テスト対策（数学Ⅱ・B、現代文）、早稲田大学文化構想学部の二次試験対策を行う。（在籍：1名）		
1回あたりの 生徒の 参加人数	4名ほど		
1回あたりの コーチの 参加人数	2～3名ほど		
利用教材	独自に用意した教材。主に市販のもの。 生徒によっては、学校の教科書やワークにより指導を行う。		
学習の様子 や成果	【総括】 学習に対して意欲的な生徒や、自分の将来の夢に向かって努力する意思がある者のみ 在籍しているため、全体的に前向きに学習できている。 一部、学習に遅れがあり、学校の授業に十分についていけない生徒も在		

籍しており、そういった生徒達に対しては、授業のフォローを中心に行った。

逆に、難関校を目指す生徒に対しては、現実の公立高校入試や大学一般入試における過酷な現状を踏まえ、中学生では5教科450点以上を目指す指導、高校生では難関大学を目指す指導を行った。

結果として、全体的な成績の底上げに繋がったと思われる。

また、テストで得点できることによって自己肯定感の向上に繋がったと思われる。

①中3ハイレベルクラス（5名在籍）難関高に合格するため、基礎学力を定着させるとともに、正答率の低い差がつく問題も自分で解き切れるだけの学力を身に付ける。

Dさん：年間平均得点（定期テスト）432点（実力テスト）442点
茨統統一テスト（模試）偏差値67
→竹園高校合格（本番の点数：436点/500点）
悲願の無料塾からの竹園高校合格を成し遂げる。

Eさん：年間平均得点（定期テスト）421点（実力テスト）426点
茨統統一テスト（模試）偏差値66
→竹園高校合格（本番の点数：446点/500点）
本番で自己ベストを更新し、D判定からの逆転合格。

Fさん：年間平均得点（定期テスト）425点（実力テスト）403点
茨統統一テスト（模試）偏差値65
→竹園高校不合格→常総学院A特待（本番の点数：421点/500点）

Gさん：年間平均得点（定期テスト）424点（実力テスト）402点
茨統統一テスト（模試）偏差値62
→水海道一高合格（本番の点数：382点/500点）

Zさん：茨統統一テスト（模試）偏差値63
→常総学院A特待EXコース

②中3基礎クラス（6名在籍）高校の選択肢を広げる指導。

Hさん：伊奈高校合格（本番の点数：278点/500点）
英語と数学の苦手を克服。

Iさん：土浦三高（商業科）合格（本番の点数：326点/500点）
苦手の理科・社会を克服。得意の数学で自己最高点の77点を取り、E判定からの逆転合格。

Jさん：土浦三高（普通科）合格（本番の点数：345点/500点）
苦手の国語で自己最高点の91点を取り、E判定からの逆転合格。

Kさん：水海道二高（普通科）合格（本番の点数：309点/500点）
5教科での自己最高点を取る。

Lさん：伊奈高校合格（本番の点数：262点/500点）

Mさん：つくば工科合格（本番の点数：238点/500点）

③中2基礎クラス（4名在籍）個性別指導。
全員英語、数学の苦手意識が強いため、英・数を重点的に指導。
定期テスト前2週間には、理社も追い込んで指導する。

④中1基礎クラス（1名在籍）完全個別指導
きめこまやかな指導で、苦手分野の克服を目指す。

⑤高3基礎クラス（1名在籍）将来を見据えた指導。
Lさん：英語・数学・化学を中心に指導。
中学生の時から指導。中学時ほとんど不登校だったので、特に気にかけている。ロベとしては色々と相談に乗りながら、本人の夢を応援する。
次第に前向きになり、高校からきちんと学校に通えるようになった。
「ブライダルパティシエになって、幸せの後押しがしたい」との夢があり、専門学校への進学を希望。内申点が必要であることから、本人も主体的に勉強しているところ。
→希望する製菓関係の専門学校への進学が決まる。

⑥高2最難関大クラス（1名在籍）
早稲田大学のセンター利用等を見据えた対策を行う。



6、イベント・生きる力教室について

非認知能力の向上を目的として「生きる力教室」を主に竹園教室と谷田部教室にて開講。月に1回の目安で教科書だけでは学べない内容の習得を試みた。

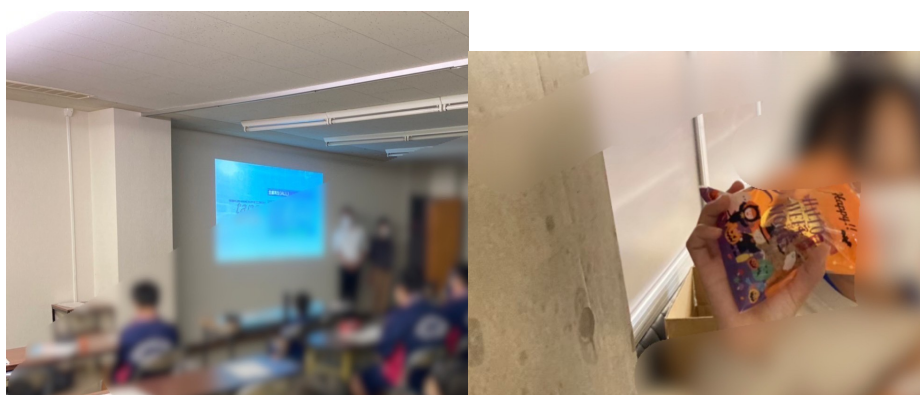
生きる力教室 タイトル	内容	方法
ここからタイム 合計7回実施。	性についての授業。 自分の「こころ」と「からだ」 に向き合った。子どもの権利に ついてや胎児がどのようにして 誕生するのかなど学んだ。	外部講師、はぐ♡ラボ 代表の中井聖さんを招 聘し、講義を行っても らった。
マネー講座 合計6回実施。	お金との付き合い方を学んだ。 現金と電子マネーの違い、ビジ ネスの基本の三方良し、売り上 げの立て方など実践的なお金や 仕事のことの基礎的なところを 学んだ。特にトートバッグをデ ザインから売り上げまで子供た ち主導で案出しをし、実際に販 売まで行った。	はッピーマネープラン ニング代表の小峯洋子 氏を招聘し特別講座を 行った。
PASONA 職員を 招いての 講習会	PASONA の職員の、元プロサッカ ー選手の方が二人来てくださ り、「周囲に感謝をすること」、 「あきらめないでやり続 けること」で夢がかなう	サッカー・恵まれない 環境からのリベンジな ど子供たちにも寄り添 った視点からのプレ ゼンで、情熱的な内容 になった。
身近に潜む SNS のおそろしさ	つくば市警察署と協力し、 子どもたちに SNS やスマホに かかわる危険性を周知してもら った	どんな人とも気軽に繋 がれる SNS によって、 どんな危険があるかを 学んだ。投稿する際の 注意や、実際に会うの は避けるといった実践 的な学びを得た。

7、コーチ研修について

ボランティアコーチに対し、①学習会としての意志の統一②現場の課題の確認とその解決策の考案を主たる目的としてコーチ研修を行った。

研修内容は以下の通り

実施日	参加人数	研修内容	成果
4/6	22 人	つくばこどもの青い羽根学習会での目的を再確認し、生きる力についてどのように身につけさせればいいのかを全員で考察した。	ヒアリングシートの作成、ボランティアで対応し切れない際のフォローチャートの確認
9/22	22 人	ROBE つくば学習会の指針の再確認。また、数字で示していく、大げさに褒める、宿題の管理をするといった具体的な施策をうちたてた。また、日本の貧困問題についても学んだ。	StudyPlus の効果的な活用につながった。現場では「理解という収穫がある」勉強を中心に行っていくようになった。
11/22	21 人	子どもへの関係性の作り方、また発達障害のある子についての勉強（基礎編）を行った。	宿題についても、全員に画一的に出すのではなくその子に合わせた内容、難易度のものを出すことになった。
1/11	20 人	発達障害をもつ子への特に勉強面に置いての配慮の仕方を臨床心理士を招いて講座を行ってもらった。また、勉強の大切さの再確認を行った。	生きる力と学力は両輪であり、そのどちらも注視する必要があること、一人一人の特性に気付くことの重要性を学んだ。



8、食育支援について

計 10 の団体と連携し、子ども食堂を行った。

◎効果

コーチと一緒に食事をする事で、“心の栄養”の補給となった。孤食が当たり前だったり、インスタント食品ばかり食べている子たちにとって、つくば学習会に来る楽しみのひとつとなった。各団体へ、さまざまな方、団体様から頂いた寄付物品を渡すハブとして機能した。感染症拡大防止の観点から衛生的環境づくりを徹底した。



9、今後の課題

【生徒に対して】

つくば学習会での課題としては、小中学生は勉強が苦手な生徒、勉強を頑張りたいくても頑張れない子と環境や特性が多種多様な中で、職員、ボランティアコーチがどれだけ生徒に寄り添い、居心地の良い環境を築いてあげられるかが課題になってくる。

また、高校生は居場所として求めている、進路相談や学校でのトラブルを抱えている生徒が多いので、それを気楽に相談できる居場所を今後も続けていくことが大切である。

【ボランティアコーチに関して】

個別指導の実現のためにはまだ人数が足りていない。この活動がもっと知れ渡りコーチの数を増やすには告知活動やSNSの活動報告、HPにも力を入れていく必要がある。

また、ボランティアコーチの指導力も問われている。騒がしくしていても強く注意できない、意味のない学習をそうと分からず生徒の意見を呑み看過してしまう、子どもの気持ちに寄り添えていないといった例が挙げられる。ただ、通常の学習塾の様にカリキュラムやプログラムに沿って、という形式通りにはいかない場面も多いため、求められる柔軟性の難易度は高い。その子にはどのような支援が必要か見抜き、その子の状況をきちんと分析する力が問われている。現場からは学習支援と居場所支援、同時にやらなければならないという点で、どこまで勉強に向かわせるかの配分が難しい、という声が上がっている。

最後に、これは仕方がないことだが、やはりそれぞれの生活や仕事の状況の変化により多くのコーチが数か月で現場を離れて行ってしまう。生徒の中にはどうせコーチはいなくなるんだから関係を築いても仕方がないと、コーチの名前も覚えていない生徒もいる。コーチの方にも続けたいと思ってもらえるような雰囲気や体制を構築中である。

【子ども食堂について】

現在は10団体でのローテーションとなっている。つまり、月に16回実施している実施日に対して食事を提供して下さる団体数が不足している。学校が終わり、部活が終わり、その後学習会に来る生徒にとって、食事は貴重なエネルギー源である。21時近くまで学習時間は及ぶ。どの子にも空腹に耐えながらの学習のように辛い思いはさせたくない一心である。

また、生徒とコーチの数が増えたことによりそれぞれの団体にかかる負担も高くなってきている。ひとりでおにぎりを20~30個作らなければならなくなったケースもあった。当然、それに応じて各団体の費用・食材の負担も高くなってきている。現在つくば市からは子ども食堂に対しての直接の資金援助はなく、多くの団体に実費での負担をしていただいている。（次年度は、食材費を少し確保はして貰えた）

ハラルの子、アレルギーの子、人の手が触れたものを食べられない子といった生徒の特性に対する対応も出てきて、工程がやや煩雑になってきている。

10、むすび

現在、日本の子どもの7人に1人は貧困状態にあるといわれている。貧困状態の家庭では、家事に追われたり、塾に行けなかったり、親がずっと仕事で家に勉強を教えてくれる人がいない、という状況におかれている。すなわち学習に遅れが生じ、学校の進度についていけなくなり、最後には子供たちは自信や希望を失っていってしまう。

そして、学力と年収は色濃く紐づいていることは統計上からも明らかにされている。物事を吸収する意欲を失ったり、頑張ることにネガティブな感覚を持つようになった子は、多くの場合未来には低収入に

なってしまう。

そのようにして、「貧困の連鎖」が現代日本では横行している。

本無料塾の最大の目的は、「貧困の連鎖の断絶」である。

学習支援により貧困の連鎖が断ち切れ、あらゆる家庭の子どもたちがのびのびと暮らせる世界を実現し、ここで学んだ子供たちが社会に出て、活躍できる大人に成長してほしい。その世界に一步でも近づけるよう、日々できることを一所懸命にしていける所存である。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の金額 (単位：千円)
① 学童クラブの開設・運営事業 ⑥ 子育て支援に関する相談・講座・イベントなどの企画運営事業	つくば市の委託事業による放課後児童健全育成事業の運営及び、保護者面談による子育て支援の為に相談	(A) 通年（放課後及び長期休み） (B) 万博・みどりの施設 (C) 延 1440 名	(D) つくば市在住の放課後子育て支援に必要な小学生・保護者 (E) 延約 4800 名	22,438
② 児童福祉法に基づく障害を持つ児童等の保育及び学習指導事業 ③ 児童生徒の学習指導事業	つくば市との協働事業による低所得世帯の児童（小学生・中学生・高校生）を対象に無料で学習指導を行う学習支援無料塾	(A) 週に 6～7 回（月曜～日曜） (B) 公共の施設及び万博学童施設・放課後等ディサービス施設 (C) ボランティア含め延 188 名	(D) 低所得世帯に限った世帯の児童及び保護者 (E) 延 3691 人	9,062
④ 各種スポーツ及び習い事の開室、運営事業	・ヒューマンアカデミーの FC 事業 ロボット教室の運営 ・TOS 家庭教師による発達障害児への家庭教師事業	(A) 月に 4 回（金・土曜クラス）各基礎・応用 (B) みどりの学童施設 (C) 延 60 名	(D) 地域の応募された児童及び保護者 (E) 延 216 名	2,273
⑤ コミュニティカフェの運営 ⑫ 子ども食堂の運営事業	・学習支援無料塾に通う児童に限定した子ども食堂の運営 ・日本財団の助成によるコミュニティカフェの準備	(A) 無料塾開催日の月・火・木・土 (B) 調理室がある公共施設及び法人の借りている施設 (C) ボランティア含め延 960 名	(D) 無料塾に通う児童と学習指導を行うボランティア限定 (E) 3 教室合計 延 5,434 名	2,178

⑥ 子育て支援に関する相談、講座、イベント等の企画運営事業 ⑦ 子育てサービスに関するサービス事業	無料塾及び学童クラブに通う児童の保護者に対する面談、相談	(A) 年間 8 ヶ月程 (塾の月火木土実施日 学童：所定) (B) 公共の施設及び万博施設又は万博事務所 (C) ボランティア含む 30 名	(D) 塾・学童クラブご利用の保護者 (E) 約 1 3 0 世帯	0
⑩障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	障害者グループホームの開設・運営	(A) 365 日 (B) 緑が丘の 2 施設 (C) 10 名	(D) 関東全域 (E) 18 名	1 9, 6 0 5

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	事業費の金額 (単位：千円)
	実施しなかった		

(備考)

- 2 は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 2 (2)には、定款上「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する